

<2017年3月期 第1四半期>  
**第1四半期補足説明/成長戦略説明資料**

---

データセクション株式会社  
2016年8月12日  
証券コード：3905

1. 2017年3月期 第1四半期実績
2. 新規事業展望
3. データセクションの事業コンセプト

① **1Q売上・利益は概ね予定通りの進捗。2Qは現時点で、対前期比及び当第1四半期比で大幅な増収が見込まれる**

② **昨期からの先行投資案件が、着実に収益化**

- ・人工知能（DeepLearning）関連の受注が好調
- ・海外インバウンド事業は売上拡大中（海外拠点も新設）

③ **将来大きく伸びるための布石展開**

将来の収益を見越した積極投資継続

- ・大手自動車会社と自動運転関連の共同研究開発を開始
- ・AI技術を活用したフィンテック事業推進のためJV設立
- ・セキュリティ画像処理技術でのイニシアティブ  
（国内アダルト画像フィルタリングに当社の技術を活用）等々

# 1. 2017年3月期 第1四半期実績（損益計算書（連結））

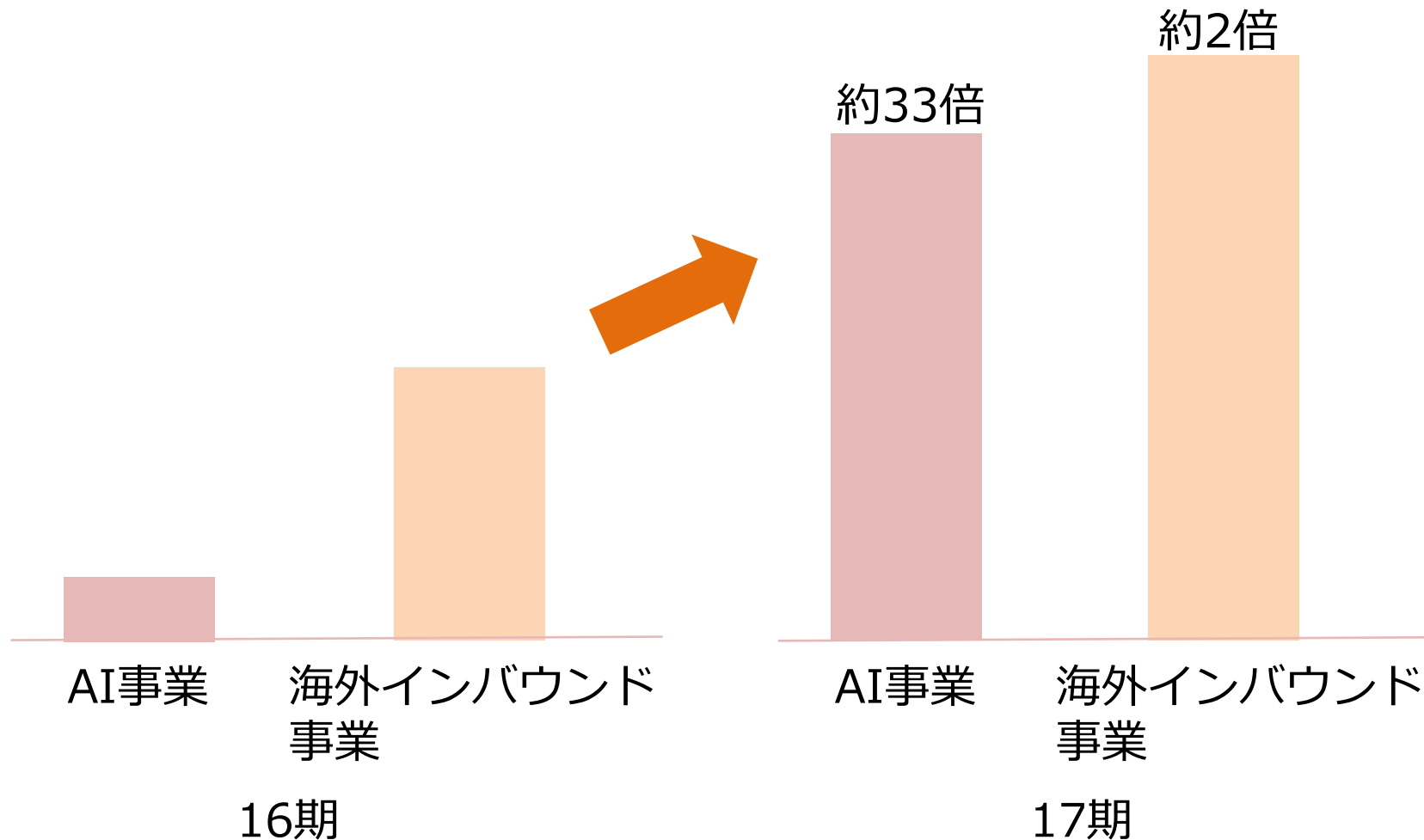
- ▶2017年3月期 第1四半期の売上・営業費用はほぼ予算通りの進捗
- ▶経常費用のうち、為替差損2百万円が発生

単位：百万円

	第16期 第1四半期 (連結)	第17期 第1四半期 (連結)	増減額
売上高	93	94	1
営業費用	91	95	4
営業利益	2	△0	△3
経常利益	5	△4	△9
親会社株主に帰属 する四半期純利益	3	△5	△8

# 1. AI事業・海外インバウンド事業は順調に推移

AI事業は前期比約33倍の売上の計上を、海外インバウンド事業は前期比約2倍強の売上の計上を、17期として見込んでいる



# 1. 2017年3月期 第1四半期実績（貸借対照表（連結））

- ▶流動資産の減少は、受取手形及び売掛金の減少（58百万円）が主要因である
- ▶固定資産の増加は、無形固定資産の増加（10百万円）が主要因である
- ▶負債の減少は、未払金の減少（19百万円）が主要因である

単位：百万円

		第16期 期末 (連結)	第17期 第1四半期 (連結)	増減額
資産	流動資産	852	783	△69
	固定資産	214	263	49
	資産合計	1,066	1,046	△19
負債純資産	負債合計	54	37	△16
	純資産	1,011	1,009	△2
	負債純資産合計	1,066	1,046	△19

## 2. 新規事業展望

---

### ① 人工知能（DeepLearning）分野

・ Webフィルタリング、マーケティング分野での実績をもとに、多くの大手事業者との取り組みを実現。人工知能活用の機運が高まり、それに伴い引き合いも増加し、17期通期では対前期比33倍程度の売上計上を見込む。

### ② 海外インバウンド事業

・ 訪日外国人調査需要は引き続き堅調に推移。インバウンド施策に加え、アウトバウンド施策も視野に入れ6月にはマレーシアへ進出。本年度はさらに5か国へ進出予定。訪日外国人観光客の増加の影響もあり、17期通期では対前期比2倍程度計上を見込む。

### ③ 【特許会計システム独占的使用権×DeepLearning】フィンテック事業 推進の合併会社を設立

・ 特許独占的使用権とデータセクションの強みである人工知能（DeepLearning）を活かしたフィンテック事業展開のための合併会社を設立。早期に大手会計システム会社との業務提携などを見込む。

### ④ その他の展開

## ① 人工知能（DeepLearning）分野

---

### 【主な実績】

- ・ Webフィルタリング・マーケティング分野でのサービス化
- ・ 大手食品メーカーによる、利用シーン発掘サービスの利用
- ・ 大手自動車メーカーとのアライアンス

### 【2Q以降の見通し】

- ・ 通期で、前期比33倍程度の売上を見込む（7月31日時点）

### 【今後の戦略】

- ・ 人工知能の最先端技術を活用し、各業界のリーディングカンパニーとのアライアンスやジョイントベンチャーにより新事業を生み出すことで、新たな市場を獲得することを目指す。具体的には自動車、防犯・セキュリティ、画像フィルタリングを先行事例として多方面に展開



### 【主な実績】

- ・ 昨期、すでに複数の省庁、地方自治体への納入実績
- ・ 今期受注額は、およそ昨年の2倍程度を見込む（7月31日時点）

### 【背景】

- ・ 2015年度の訪日外国人客数が、初めて2,000万人の大台を突破、2020年には日本政府として4,000万人を目標とし、観光立国化を進めている。こうした背景の中、官公庁や地方自治体、小売・流通業界では各種調査等のマーケティング活動全体における施策が求められている

### 【今後の戦略】

- ・ 海外インバウンド事業で獲得した海外の富裕層を中心とした日本ファンをコミュニティを通じて囲い込むことによりプロモーションなどを支援する
- ・ 海外における日本ファンのニーズを掴めるリーディングカンパニーとして、海外進出する日本企業にとってのハブとなり、海外進出を支援
- ・ 海外インバウンド事業で獲得したノウハウを基に越境ECビジネス等の事業を実施

## 【概要】

・公認会計士としての監査経験と、現場での会計業務経験を持つKAGホールディングズ代表取締役が開発した特許保有の会計自動仕訳システムと、人工知能技術に強みを持つデータセクションの共同出資による、フィンテック事業推進を目的とした新会社の設立

## 【構想】

・第一弾として、現在では手入力やOCR等で実施している請求書情報の入力業務を、人工知能技術による最新の文字認識技術と新会社で独占的使用権を持つ会計自動仕訳システムを組み合わせることにより、入力から仕訳、消込まで会計業務に関わるあらゆる工程を自動化し、大手会計システムベンダーとの取り組みを目指す。

・その後、国内の大・中・小・各企業と個人をターゲットとしたそれぞれの会計システムベンダーとの連携を推進することで、国内すべての会計データを取り扱う『国内会計データの包括的な立ち位置』を目指す

## 【今後の戦略】

Step.1：国内の大手会計システムベンダーとの業務資本提携

Step.2：国内の大・中・小企業と個人をターゲットとしたそれぞれの会計システムベンダーとの業務提携

Step.3：Step2で得た、国内会計データをもとにした新規事業展開

Step.4：国内で蓄積した技術とナレッジを強みとしたグローバル展開

### 【ベトナムを中心とした海外展開】

- ・ 海外向け新サービス「iMonitor」ベトナムにて提供開始  
(既に約1,300社の現地企業に提供。さらなる拡販を目指す)
- ・ ベトナムにおいて、レポートニングサービスの受注増加中
- ・ ベトナム最大手通信会社グループ（DCC社）との業務提携により、販路のさらなる拡大を見込む（ホーチミンへの進出）
- ・ IMJ Investment Partners Pte.Ltd.が運営する、東南アジア向けファンドへの出資（東南アジア諸国への事業展開を視野に入れた出資）

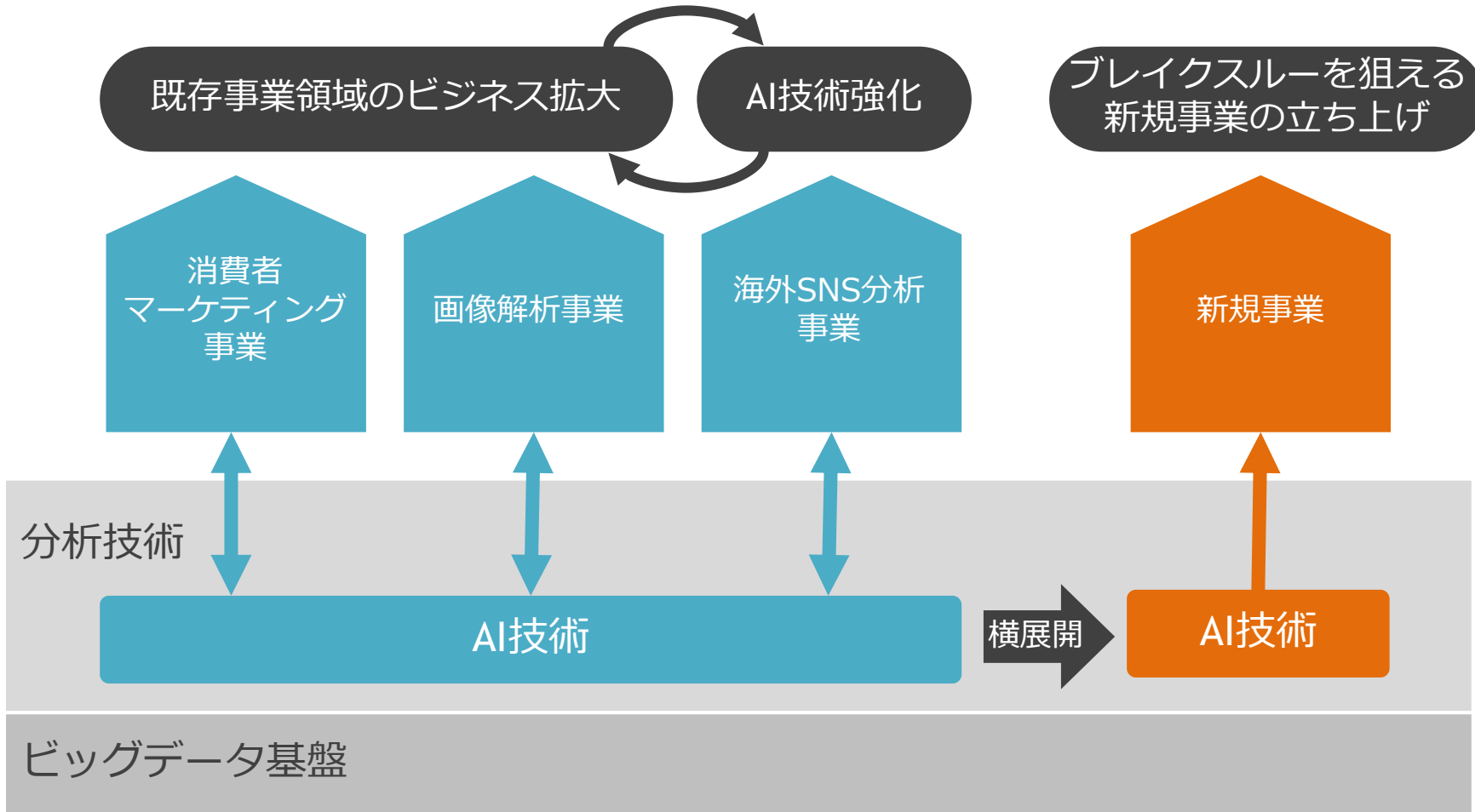
### 【新たなデータ活用ビジネス展開に向けた動き】

- ・ 企業内データ活用支援への取り組み  
業務最適化ビジネス支援、在庫最適化ビジネス支援等のソリューション提案
- ・ 日本データ取引所の取り組み  
データ取引プラットフォーム運営を見据えた第一歩として、データカタログサイトの構築を実現

### 3. データセクションの事業コンセプト

## AI技術を既存ビジネスに展開

→ さらに新規事業を創出することで、新たな収益を生む



## 売り手よし、買い手よし、世間よし

公共性の高い事業に取り組むことにより、結果として大きなリターンを獲得

暮らしやすい社会

安心できる社会

豊かな社会

- ・ 交通インフラ
- ・ 自動運転
- ・ 金融分野への展開

- ・ 防犯
- ・ セキュリティ

- ・ 訪日外国人調査
- ・ インバウンド支援
- ・ アウトバウンド支援



**DATASECTION**

**未来のビジネスを AIとデータで創造する**

- 本資料は投資家の参考に資するため、当社の現状をご理解いただくことを目的として、当社が作成したものです。
- 当資料に記載された内容は、一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。
- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
- 上記の業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社の経営者が判断した見通しで、リスクや不確実性を含んでおり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。従いまして、これらの業績予想のみに全面的に依拠して投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。